令和7年度 算数科 授業改善推進プラン

大田区立志茂田小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・対話する力、発信する力を育むためにカリキュラムマネジメント学習することにより、他教科と関連させたり、発展させたりして学習を進めることができた。
- ・発信する機会を多くもつことにより、自分の考えを堂々と伝えることができる児童が増えた。

(2) 課題

- ・対話力については、相手の質問に対して即時に思考する必要があるため、一朝一夕に身に付くものではなく、継続した学習が必要である。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第4学年	目標値に対し、「測定」が下回った。	/	/
第5学年	目標値に対し、「データの活用」が上回った。	目標値よりやや下回った。(第4学年時)	/
第6学年	全ての観点において目標値より下回った。	目標値と同程度であった。(第5学年時)	目標値と同程度であった。(第4学年時)

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値に対し、「測定」が下回った。また、「数と計算」が目標値をやや下回った。	目標値に対し、「測定」が大きく下回った。他の観点において目標値と同程度であった。	前向きに学習に取り組むことができる。集中を長時間持続させることが難しい。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値に対し、「変化と関係」がやや上回った。また、「数と計算」が目標値をやや下回った。	全ての観点において目標値と同程度であった。	学習は意欲的で、意見の発表や交換も活発に行う。一つの課題に対して粘り強く取り組むことが難しい。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期的に、復習の時間をとり、短時間でも復習を繰り返して、学習の定着を図る。	具体物・半具体物に触れ、量感を感じられるようにし、具体的なイメージをもって学習をすすめられるようにする。	児童が意欲的に学びたくなるように、身近な物事と関連付けた導入を工夫する。自他共に考え方を認め合う場を設定する。

（2）中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
かけ算九九や加法・減法の筆算を反復練習するなど、基礎計算力の向上に努める。	身近な数字や物事から課題を考えることで、広さや大きさなど数の量感を養う。	テストのように声を出さずに取り組む課題や時間を設けることで、静かに集中して取り組む態度を養う。

（3）高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
小数・分数の四則計算を反復練習する。分数の通分・約分について公倍数・公約数のしくみから復習する。	割合について立式が行えるよう、数直線などに表し、場面を正しく把握できるようにする。	一見して内容が理解できないような課題に対しても、すぐに質問するのではなく、句読点で文章を切り分けて、考えさせる。